

いたちがわらばん

鮪川・狹川・川原番・瓦版 春号

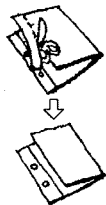


版画 宗森英夫

葉月橋上流

切りとり線

この部分を切り取ってファイルすると便利です。



いたち川の生き物

いたち川のような小さく短い川でも、上流と下流では地形や環境が異なり、そこに住む生き物にも違いが出てくる。例えば、海から上がってくるユリカモメのような鳥は下流域止まりだが、人里から離れた所を好むオシドリなどは上流部にしか来ない。

下流部は水量も比較的多くなり、深みもあるので、カワウのように水中に潜る鳥もやってくる。一般に、上流は水質も良く、きれいだが、下流に行くにしたがって汚れてくる。そこで清流を好むアブラハヤのような魚は上流部で多く見られ、汚れに強いオイカワのような魚は下流部で多く見られる。

流れが緩やかで、水深の浅い所は、夏には水温が上がリ、ぬるま湯のようになり、酸欠状態になるため、多くの生き物にとって住みにくくなる。人工的に所々に深みを作ってやると避難場所ができるため、生き物が死滅せずにすむ。いたち川でもそのような配慮がなされている。

また、河川敷に下りる階段がない所が何力所か、意識的に設けられている。これは人や犬の進入を防ぎ、アヒルやカルガモが安心して営巣できるための場所を確保してやるための配慮である。このように、そこに住む生き物たちのために配慮した工夫が、いたち川にはたくさんある。

(5p)

NEW!

いたち川散策マップ完成のお知らせ

平成8年8月発行の「いたち川情報マップ」に続けとばかりに、新しい「いたち川散策マップ」が誕生しました。

昨年、発行元の栄区役所に協力し、現地調査を開始。調査で得た情報からガリバーマップ(拡大地図)を作成しました。その地図を元にできあがったのが、「いたち川散策マップ」です。

今回のマップは、いたち川散策のお供に最適なハンディタイプ。さらに、いたち川の自然を満喫できる散策モデルコースを4コース掲載しています。それでは、新しいマップのプロフィールをご紹介します。



名前

いたち川散策マップ

大きさ

縦 270 mm × 横 1050 mm (コンパクトにたためます)

セールスポイント

- ・ イラストや写真がいっぱいの全面フルカラー
- ・ 丘と谷戸の地形を表しました
- ・ 散策モデルコースの紹介 (全4コース)
- ・ いたち川流域で見られる花や鳥の紹介

散策コース

全4コースをちょっぴりご紹介します。

- ・ Aコース (ゆっくりのんびりコース)
いたち川プロムナードと上郷市民の森コース
- ・ Bコース (水と緑と深い谷に遭遇)
瀬上沢小川アメニティと瀬上市民の森コース
- ・ Cコース (まさに自然観察!)
いたち川小川アメニティと横浜自然観察の森コース
- ・ Dコース (植物やグランドキャニオンとの出会い)
洗井沢川せせらぎ緑道と荒井沢市民の森コース

ひとこと

いたち川散策の時は、あなたのおそばに。
楽しいひとときのお手伝いをさせていただきます！
末永くよろしくお祈りします。

配布場所：栄区役所 1階 広報相談係

問合せ先：栄区役所区政推進課企画調整係

電話 045-894-8331

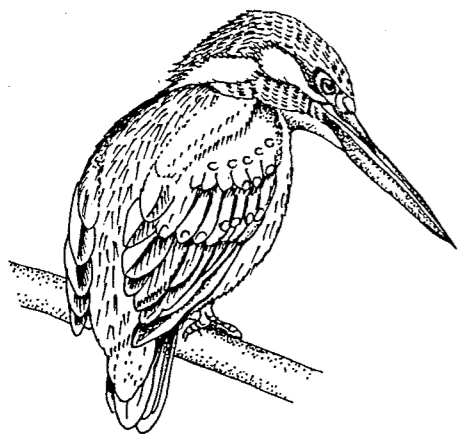
発行年月
2002年4月

(通刊 17号)

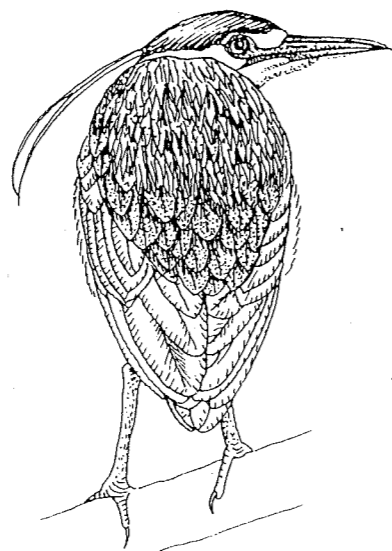
発行：狹川 OTASUKE 隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE 隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8331 FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせはこちらまで)

いたち川の水鳥・野鳥の仲間



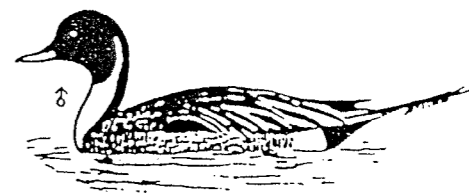
カワセミ
いたち川全域で見られる。昼間はあまり活動しないので、早朝によく出会う。全長17cm。



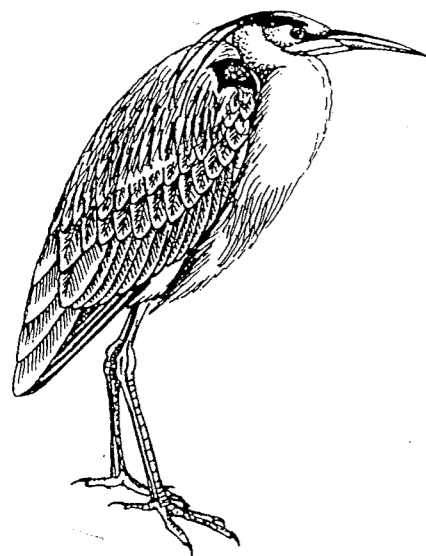
カワウ
柏尾川には、かなり以前からいたが、最近いたち川にも進入してくるようになった。体を水に沈めて泳ぎ、潜水を繰り返して魚を捕らえる。全長82cm。



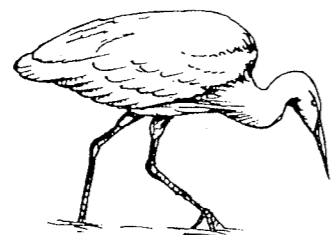
コガモ
名の通り最も小型のカモ類で、冬鳥として渡来する。オスの頭部は栗色で、緑黒色の光沢のある帯があり、尻の三角形の黄色が目立つ。全長37cm。



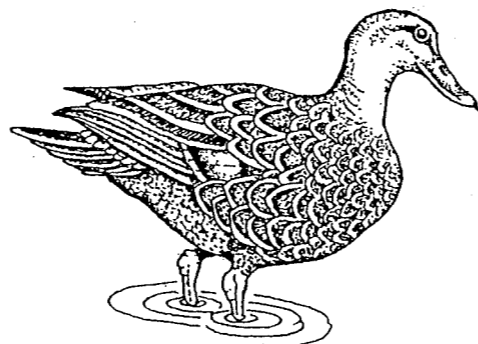
オナガガモ
柏尾川には毎冬たくさん飛来してくるが、いたち川には、あまり来ない。今冬は海里橋を中心に七つがい来ていた。全長75cm。



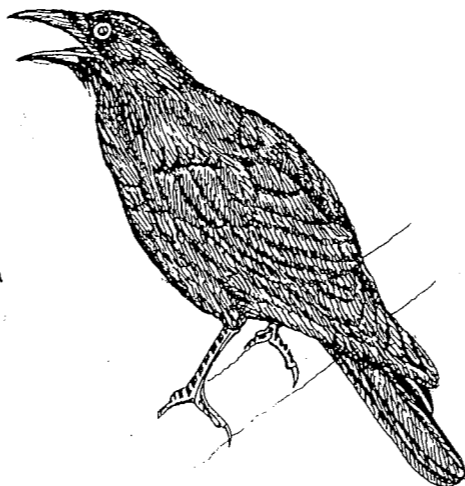
アオサギ
いたち川にいる鳥の中では最も大型で、全長93cm。



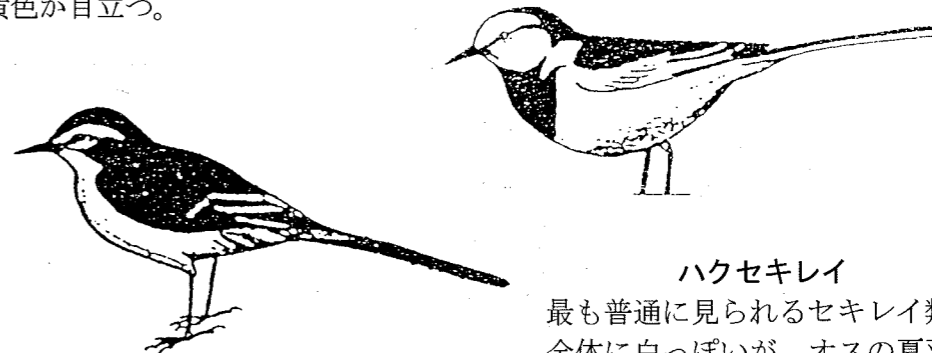
ゴイサギ
夜行性のサギだが、昼間行動することもある。成鳥は灰色っぽい、若鳥や幼鳥は淡褐色で全身に白っぽい斑点がある。全長57cm。



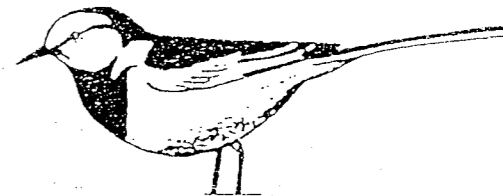
カルガモ
留鳥で一年中見られるカモ類。オスとメスが同色の黒褐色で、黒くちばしの先の黄色が目立つ。おもに植物食。全長60cm。



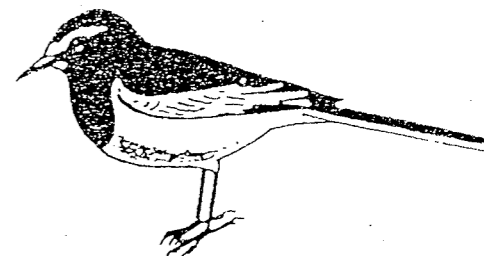
ハシボソガラス
アヒルやカルガモの卵を盗んだり、雛を襲ったり、他の鳥には迷惑な鳥で、ザリガニ・カエル・魚類なども食べる。全長50cm。



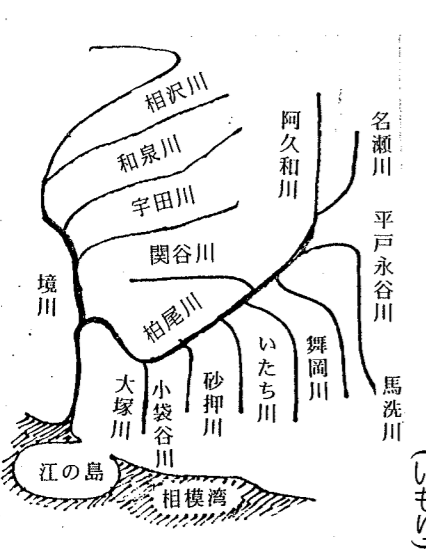
キセキレイ
特に尾が長くスマート。腹は鮮やかな黄色で、背側は灰色。目の上には、白い線がある。尾を上下に振りながら歩く。飛ぶときは波形に「チチンチチン」と鳴きながら飛ぶ。全長20cm。



ハクセキレイ
最も普通に見られるセキレイ類。全体に白っぽい、オスの夏羽は頭から背にかけて黒い。顔には目を通る黒い線がある。全長21cm。



セグロセキレイ
いたち川ではめったに見られない。飛びながら「ジージー、ジージー」とにごった声で鳴く。全長21cm。



河川用語のまめ知識 その一 「川の流域」と「水系」

ある川に雨が流入する全域をその川の「流域」といい、流域の互いに接する境界を「分水界」という。分水界が山脈の場合は、「分水嶺」ともいう。

いたち川では、円海山や大丸山が連なる尾根道(区境)が分水嶺となっており、栄区側(昔の相模国)に降った雨は相模湾に注ぎ、金沢区(昔の武蔵国)に降った雨は東京湾に流れる。現在の栄区の柏尾川の東側の大部分が、いたち川の流域になる。面積は二三・九平方キロメートル。

水源から河口にいたるまでの本川と支川の集合を「水系」という。いたち川の属する水系は、その中の最も大きな川である境川の名を冠して「境川水系」と呼んでいる。

(575)

リレートークその十六 プロムナード横断のための信号機

高齢化社会に伴い、人々が求めているのは癒やしではないでしょうか。そんな要望に添えて、いたち川沿いに遊歩道が造られています。小さな子どもからお年寄りまで、多くの人たちが安心して歩けます。でも残念なことは、その道は所々で車道に遮られてしまっています。通勤・通学・通院・買い物と、人も車も利用度の高い城山橋は、先を急ぐあまり車道を横切り、事故を起こす…そんな場所でした。そうした事故を一つでも減らしたいとの、警察と住民の要望が実現され、左岸に信号機が設置されました。

ここでは、朝七時から九時までは自動式、以後は押しボタン式になっています。「信号機ができて本当に良かった。これで安心して渡れる。」と喜んでくれる人、「車が通っていかなくても、信号が赤だから…」と足踏みして待つ人、信号無視で渡る人と様々です。最近慣れてきたのでしょうか、みなさん信号を守っているようです。そして事故も起きていません。

今度、天神橋も鎌倉街道拡張工事で改築されると聞いていますが、これを機会に、人に優しい遊歩道を連結させていただきたいと思えます。例えば、桂橋右岸の水辺へのスロープの道を橋の下を通り抜けるように(階段でなく)して欲しい。逆に、車道を大きなスロープにして下のトンネルを歩道に。また安定した吊り橋を架ける等面白いのではないのでしょうか。

ところで、車優先の忙しい生活から人の心にゆとりある生活へと、夢を届けたいと思いませんか。

(あゆみ)

切りとり線